

令和8年度第1回一関市観光振興計画策定委員会 会議録

- 1 会議名 令和8年度第1回一関市観光振興計画策定委員会
- 2 開催日時 令和8年6月30日（火）午後2時から午後3時40分まで
- 3 開催場所 一関市役所2階 大会議室B
- 4 出席者
 - (1) 委員 菅原清忠委員（委員長）、金森修委員（副委員長）、市嶋豊委員、沼倉恵子委員、木皿譲司委員、大沼佐樹子委員、高橋幸博委員、佐々木幸夫委員、千葉英子委員、菅原恵美委員、秋山真紀子委員、小野寺正寿委員
 - ※欠席者 及川豊委員、橋本志津委員
 - (2) 事務局 木村剛商工観光部次長兼観光物産課長、須藤美由紀商工観光部次長兼産業企画課長、佐々木浩二観光物産課長補佐兼観光物産係長、松岡敏徳産業企画課商工企画係長、菊池朋映産業企画課主事

5 議題

(1) 協議

ア 委員長と副委員長の選出について

イ 次期（令和9年度から令和13年度）一関市観光振興計画の策定について

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 今野副市長挨拶

本日はお忙しい中、一関市観光振興計画策定委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。また、皆様には日頃から市政の発展、観光振興に御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一関市では本年度の組織改革により「商工労働部」を「商工観光部」に改めたところであります。部の名称に「観光」を掲げ、今後、観光振興に対する一関市の施策を改めて見直し、そして推進を図っていきたいと考えております。

さて、令和3年度に策定した現行の一関市観光振興計画は、令和4年度から令和8年度までの5年間を計画期間としておりますが、本年度をもって計画期間が満了いたします。この度、令和9年度から令和13年度までを計画期間とする次期観光振興計画策定に当たり、一関市観光振興計画策定委員会設置要項に基づき、関係団体に所属されている

方々や有識者の皆様の中から14名の委員を選任し、先ほど委嘱状を交付させていただいたところでございます。

現計画では、年間の観光入込客数や外国人観光入込客数を観光振興の目標値としておりますが、コロナ禍が明けた令和5年度時点で目標値に到達しているところであります。

その一方で、一関市の観光にかかる課題として、春から秋までの豊富な観光資源に比べて冬季の観光資源が不足していること。地域の魅力的な素材を観光資源として十分に活用しきれていないこと。増加傾向にある外国人来訪者に対し、外国人の視点に立った受入体制が十分でないこと。市内全域に観光資源が点在しており、アクセス性の向上や周遊観光の整備が十分でないこと。このような課題が残されているところであります。一関市といたしまして、こうした課題解決に向け、委員の皆様から忌憚のない御意見、御提言をいただきながら、次期計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

結びに、この策定委員会が実りの多いものになりますことを祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

9 審議内容

(1) 委員長と副委員長の選出について

委員長を菅原清忠委員、副委員長を金森修委員とする案を事務局から提案し承認された。

(2) 次期（令和9年度から令和13年度）一関市観光振興計画の策定について

資料に基づき、事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 前回の計画は年間観光入込客数と外国人観光入込客数を指標としていたことで認識しているが、一関市総合計画前期基本計画で定めた指標では、観光消費額が追加されている。

観光計画においては、何を指標とする考えなのか。

事務局 成果指標として、前回同様に観光入込客数を設定し、その数値は上位計画の一関市総合計画に合わせて外国人を含む内容としたいと考えている。

また、評価が難しく前回は参考指標としていた観光消費額についても、算出方法を研究の上で、設定したいと考えている。

委員 観光入込客数は、国が公表する統計との整合性や関係団体の士気の観点から、国内客と外国人客を分けて示した方が良いと思う。

委員 お客様やガイドする者が安心して観光するためには、熊をはじめとする害獣被害対策を行い、安全確保が必要だと考える。

委員 観光地までの交通手段や所要時間が分かりにくく、来訪の意欲を低下させる要因となっているため、来訪者目線で分かりやすい案内が必要だと思う。

委員 エリアを分けて魅力発信するなどの戦略的な計画策定は非常にありがたいと思っているが、さらに実現性のある計画にするために、誰がどのように取り組むのかを明確にするべきだと考える。

観光消費額が令和6年度は115億円に対し、令和12年度には129億円と、約10%の伸びとなっているが、通常の物価上昇で単純に達成できるため、数値はもっと上であるべきだと考える。

事務局 この数値は上位計画である一関市総合計画前期基本計画で打ち出した指標となっているため、現状の数値にて計画の策定を進めていく。

また、一関市総合計画前期基本計画は令和7年度に策定したため、令和6年度までの伸びの推移を見て今回の数値を設定している。

委員 次期計画は、インフラの増強や関係団体との連携を強化して、一関市の観光をより一層盛り上げていく内容が良いと思う。

委員 観光資源が点在しているので、その点と点を線にする、つまり話されていたエリアを分けたりストーリーでつなげたりする工夫が大事だと考える。

そうすることで、一関市の観光として強くなっていけると思う。

委員 文字中心であった現計画から、図や絵を用いた視覚的に分かりやすい構成にすることはもちろん良いと思うが、その活用方法はどのように考えているのか。ターゲットを明確にしない限りは戦略が生まれてこないのではないのか。

また、外国人観光客は8割が台湾からとのことだが、国際情勢や経済状況によって突然途絶える可能性があるターゲットであるため、数が減っている国内の旅行客に沿った戦略をもっと練って良いと思う。

もう一つ、もち食文化についてだが、もち食文化を観光資源として売り出すことに対して人によって熱量の差が大きいため、もち食文化について改めて考える必要があると思う。

事務局 外部配布用のパンフレットを作成しようとするものではなく、観光に関わる住民や事業者、お客様などの幅広い関係者に向けて、一関市の取組を分かりやすく伝えるための計画を考えている。

委員 観光戦略の施策案を一関市の観光で考えるとターゲットに乖離がある。AIやSNSの活用は、10代、20代がターゲットになるが、コロナ禍が明けてから一関市の観光はマイカー利用者が非常に多くなってきていて、ほとんどがシニア層である。

また、観光の予算的にも高く、車を利用して奥地まで訪れることが一関市のトレンドとなっている。

次期計画では以上のことを、どのように盛り込むのか。具体的な施策を打っていくのかが大切だと思う。

委員 戦略で目指すものを明確にするために、文章の文言の順番を変えるなど、施策を実施することでどのような効果が期待できるのか、分かりやすく表現した方が良いと思う。

また、計画を評価するためにも、戦略の達成度を検証するための戦略毎の指標を設定することが重要だと思う。

観光消費額については、全体の指標を変更できないのであれば、一人当たりの消費額の指標を設定して、その指標を高めにするなどの工夫ができると思う。

10 担当課 商工観光部産業企画課